

Advance

学び続ける人になろう ～自己調整学習者～

今週は万博に行ってきました。たくさんの刺激を受けた2日間でしたが、今回は少し学びについてのお話をしたいと思います。「なぜ勉強しなくてはいけないのか？」この問いを投げかけられたとき、皆さんならどう答えますか？この問いに対して、「現代の魔法使い」とも呼ばれ、多方面から注目を集めている研究者・落合陽一さんが、著書の中で次のように述べています。

僕は、勉強をする理由は、新しいことを考えたり、新しいことを身に付ける方法を学ぶためだと思っています。

特定の勉強の内容そのものよりも、勉強し続けることを止めないことの方が重要という価値観をもっているのです。

「学校の勉強なんて社会に出たらまるで役に立たない…」とよく言われますが、その考え方の大きな間違いは、教育にある「コンテンツ」と「トレーニング」という2つの要素のうち、後者のもつ意味を正しく認識できていないことです。

学校で学ぶ数式や漢字（コンテンツ）も大事ですが、それ以上に学習する訓練（トレーニング）を怠っていたら、社会に出たときに新しいことを学習する方法が分からずに、自分の経験を使えない人になってしまうのです。

何才になっても新しいことを身に付けられるスキルはどうやって培われるのかというと、若いときにいかにたくさん新しいことを習得しようとしたか、それを実際の現場で使おうとしたか、つまり、たくさん勉強し実践したかどうかだと思うのです。

実際に、たくさん勉強をした経験のある人の方が、新しい物事を習得することが得意ですし、覚えるまでの期間も短い傾向にあると思います。

それは自分なりの「学び方」と「アウトプットの方法」を知っているからでしょう。

新しいことを学ぶ必要があるときに、「どう学ぶのが自分にとって効率的か」を知っていると非常に有利になります。

そのため、どうやってその状態に自分をもっていけるかを考えながら、常に勉強し続けることが大事になってくるのです。

参考：「0歳から100才まで学び続けなくてはならない時代を生きる
学ぶ人と育てる人のための教科書」落合陽一：著（小学館）

【試験運用】聴くClassNewsletterはこちら🔊

学生時代の勉強は、すぐに「仕事」や「お金を稼ぐこと」につながるわけではありません。

しかし、「勉強を続ける習慣」そのものが、社会に出てからの成長を支える大切な力になります。

学生のうちに「勉強する」という経験を積み重ねた人は、社会に出ても新しい知識や技術を学び続けることに抵抗がありません。つまり、自分の「学び方」を知っているのです。

反対に、学生時代に勉強から逃げてしまった人は、大人になっても「やらない癖」が抜けにくいとも言われます。

「大人になったら頑張る」「お金をもらったらやる」「必要になったらやる」——そう思っても、習慣がなければ行動は変わりません。

だからこそ、「今」学ぶ姿勢を身につけておくことが大切なのです。

実は、私自身も「勉強の習慣がなかった」一人でした。

学生時代は1冊の本も読み切ったことがないほど読書が苦手でした。

しかし、教師になって「学級だよりを毎週出そう」と決めてから、必要に迫られて本を読むようになりました。新しい情報を得るために読書をし、セミナーに参加し、気づけばそれが習慣となりました。今では毎週数冊の本を手に取り、学びを発信しています。

理科の授業がうまくいかず悩んだとき、学級経営で行き詰まったとき、部活動で困ったとき...。「このままではまずい！」と追い詰められた経験が、私を変えてくれました。

おそらく、そんなきっかけがなければ、今の自分はいなかったでしょう。

だからこそ、子どものうちから「学び続けること」を習慣にしてほしいと願っています。7年生の皆さんは、中部部から始まった単元テストに向けて一生懸命努力しています。その姿は本当に立派です。

でも、それは長い人生のほんの一部にすぎません。

「人生100年時代」と言われる今、私たち大人もまだまだ学びの途中です。

SOLANの先生たちも、20代・30代・40代なんて——まだまだ「伸びしろ」だらけです（笑）。

理事長や三宅先生のように、何歳になっても学び続ける姿を子どもたちに見せていきたいものです。

私たち自身が「学び続ける大人」でありたいと思います。

We will value "Purpose" and "Ownership" for you

Grade7

October 10, 2025

Advance

EXPO 2025 大阪・関西万博



We will value "Purpose" and "Ownership" for you